
8月の普及活動状況

～県下10農林事務所農業普及課と農業経営課技術支援担当の取組～



岐阜県農政部農業経営課

＝ 目 次 ＝

ダイジェスト版・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

各農林事務所農業普及課

岐阜農林事務所農業普及課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
西濃農林事務所農業普及課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
揖斐農林事務所農業普及課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
中濃農林事務所農業普及課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
郡上農林事務所農業普及課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
可茂農林事務所農業普及課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
東濃農林事務所農業普及課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
恵那農林事務所農業普及課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
下呂農林事務所農業普及課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
飛騨農林事務所農業普及課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22

農業経営課技術支援担当

農業経営課技術支援担当・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24

< 8月普及活動状況ダイジェスト版 >

新たな産地づくりの推進 ～活力ある新産地づくり～

岐阜農林 ■アスパラガス 羽島市のアスパラガス産地拡大戦略会議開催

農業普及課では羽島市を中心にアスパラガスの新規産地づくりを進めている。7月27日に当課主催で、羽島市と羽島市内のJAぎふ本店、各支店が集まり「羽島市のアスパラガス産地拡大戦略会議」を開催した。冒頭に農業普及課長から「アスパラガスの産地づくりには計画的な活動が大事。産地拡大のために各関係機関では何ができるかを考えてもらいたい。」と挨拶した。その後、担当普及指導員からは、「活力ある新産地づくり支援事業」の実施内容を説明し、「産地づくりには、生産者、指導者、JA、行政の一体的な取り組みが必要」と訴えた。産地づくりの進捗状況、産地計画を討議し産地化に向けた決意を新たにした。



【産地戦略会議】

農業普及課では、今回の戦略会議後も定期的に会議を開催する計画である。また、オーブンハウス栽培状況と予冷库施設を視察する計画も考えており、これらの活動により産地化に一層の弾みをつけばと期待している。

郡上農林 ■夏秋いちご 夏秋いちごプロジェクト会議開催

夏秋いちごは、新たな「ぎふ農業・農村基本計画」の中でトップブランド候補品目に挙げられており、県では各関係機関が連携し、更なる産地拡大を進めている。そこで県では8月8日に「夏秋いちごプロジェクト会議」を開催し、市やJA、全農などの関係機関とともに今後の推進方針について検討した。



【実証圃現地検討】

また、当日は、郡上地域の実証ほ等の現地検討も行った。

農業普及課では、郡上地域の産地育成計画について説明し、地域における現状や課題、目標等について情報共有した。

可茂農林 ■青ねぎ 坂祝町青ねぎ生産部会産地戦略会議開催

7月15日、坂祝町青ねぎ生産部会と坂祝町役場・JAめぐみの美濃加茂農業サポートセンター・農業普及課にて産地戦略会議を開催し、今後の産地振興策について検討した。会議では、最近の価格低迷を受けて「白ネギの加工用への仕向けについても何らかに対応すべき」との意見があり、産地育成計画を作成した。また、夏場の病害対策実証に加えて、セル育苗による年内安定収穫技術の確立を図るべく、セル苗の試験生産を進めることとなった。



【ほ場での調査の様子】

東濃農林 ■ブロッコリー 面積拡大に向けた試金石～半自動移植機の導入実証～

東濃地域のブロッコリーは、既に出荷実績を持つ農業生産法人において栽培管理の技術実証を進めるとともに、面的な拡がり推進するため、新規栽培者への普及に取り組んでいる。

多治見市では、農業生産法人が、2品種の播種・育苗に取り組み、順次定植を進めている。また、新規生産者として多治見農産物直売所のメンバーも展示ほに播種・定植を開始し、順調な滑り出しとなっている。さらに、7月から開催されている「野菜づくり塾」では、30名の塾生が、育苗技術習得に取り組んでいる。一方、土岐市鶴里町の集落営農設立準備会等では、営農組織の補完作物としてブロッコリーの導入を検討するため、試験栽培を開始した。



【生育調査の様子】

それぞれの栽培面積は、多治見市の農業生産法人を除き、10a未満でごくわずかであるが、東濃ならではの「ミニ産地」づくりを目指し、栽培者の確保と展示ほ設置による基

本技術の習得支援、量販店との意見交換等の流通支援を展開していく。

恵那農林 ■ブロッコリー 面積拡大に向けた試金石～半自動移植機の導入実証～

恵那地域では、2年前から集落営農組織の経営補完作物としてブロッコリーの導入が進んでおり、本年は約1.3haで栽培が行われている。

ブロッコリー栽培では、営農組織が面積を拡大していく上で移植作業の機械化を視野に入れておく必要があることから、8月12日にJAや営農組織が見守るなか、メーカーの協力を得て実証試験を行った。

農業普及課では、今回の実証を基に、導入の可能性について関係機関とともに検討を進めていく予定である。

下呂農林 ■龍の瞳 下呂地域産地戦略会議開催

下呂地域では、活力ある新産地づくり支援事業として、「龍の瞳」を対象に活動を行っており、8月12日に下呂地域産地戦略会議を開催した。

参集者は龍の瞳生産組合の代表者をはじめ、市、JA担当者が出席し、本年度の年間計画及び今後の3カ年の事業計画等について意見交換を行った。

組合側からは、10月頃に米のコンテストを開催したいとの要望があり、関係機関での役割分担、タイムスケジュール等について協議した。

農業普及課としては、龍の瞳生産組合の活動支援を行うとともに、下呂市の農業活性化に繋げていく。



【産地戦略会議】

飛騨農林 ■飛騨黄金 「飛騨黄金」出荷始まる！

7月22日、黄金神社にてJAひだ花卉出荷組合菊部会主催による「豊穰祈願祭」が行われた後に、高山市の上切集荷場にて「出荷目揃え会」が開催され、約60名の関係者が出席した。

今年の「飛騨黄金」の出荷は7月中旬から始まり、8月11日までに約40万本（全体の約75%）が出荷された。最終的には昨年と同等以上の出荷となったが、曇天続きで蕾の発達が遅く、気を揉む状況で推移した。

今後、農業普及課では、今から来年に向けての苗作りやほ場準備、今年発生が多かったアブラムシ対策等を検討する。



【黄金神社参拝】

主要農産物の生産振興 ～売れる農産物づくりと産地の強化～

西濃農林 ■トマト 高温対策及び有機物の投入指導

23年産の定植が8月10日から開始された。猛暑の影響で低段の着果が心配されるため、農業普及課では、タイベックマルチや敷きわらの設置による地温抑制等、高温対策の実施をメルマガ等を通じて推進した。また、定植前後の手灌水による、深根安定生産も推進している。

また、放射性セシウムを含む堆肥等の取り扱いについては、「自粛」「暫定許容量の設定」「検査対象」のそれぞれの通知に対して、メルマガを用いて迅速に情報提供を行った。

揖斐農林 ■茶 放射性物質によるリスク回避 ー肥料資材の安全確認ー

茶生産では8月下旬が秋肥の施用時期であり、肥料に含まれる放射性セシウムの暫定許容値が400ベクレル/1kgに設定されたのを受け、各生産組合に組合員への周知について支援し、肥料の安全確認、記帳の徹底を啓発・誘導した。

組合では啓発チラシにより周知徹底を図るとともに、肥料の安全確認、使用肥料の制限を行い安全に期している。茶は、他品目と比較して有機物及び肥料の量が多いため、農業普及課では、今後も情報収集に努め継続的に支援を行う。

～農林事務所農業普及課、農業経営課技術支援担当の取組～

岐阜農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成23年8月31日現在

今月の重点活動

■アスパラガス

羽島市のアスパラガス産地拡大戦略会議開催

農業普及課では羽島市を中心にアスパラガスの新規産地づくりを進めている。7月27日に当課主催で、羽島市と羽島市内のJAぎふ本店、各支店が集まり「羽島市のアスパラガス産地拡大戦略会議」を開催した。冒頭に農業普及課長から「アスパラガスの産地づくりには計画的な活動が大事。産地拡大のために各関係機関では何ができるかを考えてもらいたい。」と挨拶した。その後、担当普及指導員からは、「活力ある新産地づくり支援事業」の実施内容を説明し、「産地づくりには、生産者、指導者、JA、行政の一体的な取り組みが必要」と訴えた。産地づくりの進捗状況、産地計画を討議し産地化に向けた決意を新たにした。



産地戦略会議

農業普及課では、今回の戦略会議後も定期的に会議を開催する計画である。また、オーブンハウス栽培状況と予冷库施設を視察する計画も考えており、これらの活動により産地化に一層の弾みをつけばと期待している。

主要農作物の生産振興

■水稲

早生品種の収穫始まる・羽島市

あきたこまちの刈り取りが昨年よりも早い8月18日から行われている。昨年のような高温障害も少なく、今年は1等米が見込めそうである。収穫されたコメは、地元の酒造会社等に販売される。農業普及課では、水稲青空教室の開催協力を行い、水管理やカメムシ対策を徹底し、品質低下防止を指導した。

■大豆

大豆の適期播種指導

岐阜地域の大豆は、7月中旬～下旬に播種されるが、今年は7月下旬の天候が不良で播種がやや遅れた。そこで、農業普及課からは、8月上旬を目途にすみやかに播種するよう指導した。現在の所、播種後の出芽は良好である。今後は、中耕・培土や雑草対策について随時情報提供していく。

■いちご

JAぎふ岐阜市いちご部会青年部活動支援

当部会の青年部では、定期的に研修会を開催している。

今月は、育苗研修ということで、新規就農者の育苗ハウスを訪問し、会員で技術の統一を図った。また、農業普及課からは、関西市場のいちご販売状況と加工業務用の状況調査結果を報告し、今後のぎふいちごのあり方について、出席者で検討を行った。



岐阜市いちご部会
青年部研修会

■ブロッコリー

育苗順調

は種作業が8/2から始まり、個人育苗、共同育苗、外部委託等各地で育苗中である。農業普及課では、かん水方法などの育苗管理について指導しており、生育は順調。

は種作業は8/23まで行われ、9月上旬から定植が始まる。

また、今年度から羽島市に作付けが拡大し、栽培面積は約13ha(H22:11ha)の予定。

■かき

摘果の徹底による大玉生産の推進！

管内のかきの着果は、平年よりやや少ない状況である。そのような中で、農業普及課では、岐阜市、糸貫、真正では7月下旬～8月上旬に摘果検査を実施し、適正着果に努めるように指導を行った。また、間伐検査を行った産地を支援し、大玉高品質生産に向けた取組を行った。

果実の肥大調査を8月1日から定期的実施している。昨年並みの肥大程度で、全体に小玉傾向となっている。

■トマト

資金関係：瑞穂市

トマトの栽培面積を13aから26aへ拡大の意向を持つ瑞穂市の生産者に対して、農業普及課では、施設増設のための資金利用に関して相談対応を行っている。

ポット耕栽培施設及び既存ハウスの保温効果を高めるため、二重被覆やハウスの改修も予定している。

担い手の育成・確保

■集落営農組織・営農組合

水田農業担い手を対象に野菜栽培研修支援

J Aぎふは、野菜の生産拡大を図っており、水田農業の担い手に対しても普及推進している。8月1日に開催された岐阜市水田農業担い手協議会において、J Aが推進するブロッコリーやさといも等5品目について栽培技術研修が行われ、農業普及課からも支援を行った。

■集落営農組織・営農組合

えだまめの収穫始まる・羽島市 桑原土地営農組合

桑原土地営農組合では、今年から新規に取り組んだえだまめの収穫が8月17日から始まった。

当初は、お盆前に収穫する計画であったが、やや遅れて盆明けとなった。最初の収穫分は収量もまずまずであった。この後も順に収穫が行われる予定である。

地域の動き等

■獣害対策モデル事業猪鹿無猿柵設置支援：本巣市根尾能郷地域

根尾能郷地域は、本年度鳥獣被害防止総合対策事業のモデル地区として選定され、8月11日から柵の設置が行われた。地元の農業者の他、本巣市、県関係者も協力し、地区のサポーターが中心となって防草シート、くい打ち、ワイヤーメッシュ設置などの作業を行った。

能郷地区を2ヶ所に分け、総延長1000mを設置した。



猪鹿無猿柵の設置の様子

■給食用秋野菜研修会始まる：瑞穂市

瑞穂市の学校給食用野菜生産グループでは、8月9日に徳田ネギの視察研修会を行い、定植に関わる細かな作業内容の確認を行った。8月10日にはジャガイモ・ダイコン・ハクサイの栽培講習会を行い、農業普及課では、防除体系や施肥管理の確認指導を行った。

今年は、栽培2年目になるため、一人一人の目標出荷量を掲げ、技術や面積の拡大志向を刺激することを目標としている。ぎふクリーン農業については、予定通りブロッコリーで申請を行い支援をした。

西濃農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成23年8月31日現在

今月の重点活動

■活力ある新産地づくり支援事業（ブロッコリー）

直播栽培実証ほの設置

管内各地でシートテープを利用した直播栽培の実証ほを設置した。

大垣市(青野営農組合)では8月1日に品種「ピクセル」で実施した。しかし、播種後の降雨が少なく、担当農家と相談して灌水等の対策を実施したが、干ばつの影響で8月16日の発芽数が17本/約200粒と少なかったため、8月17日に再度品種「キャッスル」を播種し直した。

輪之内町では8月19日に本戸営農組合の協力を得て、露地栽培とマルチ栽培の比較実証のため、品種「キャッスル」の播種を実施した。

主要農作物の生産振興

■水稻

生育及び収穫状況

海津市のあきたこまちの収穫が8月13日から始まった（平年より2日遅れ）。品質は良好で1等米となる見込みである。

コシヒカリやひとめぼれも各地域で8月末頃（各施設で前後する）荷受けが開始された。こちらも生育は順調で良品が見込まれている。

ハツシモの生育は順調で、病虫害の被害も少ない。出穂は普通期ハツシモで8月末～9月初旬を見込んでいる。なお、斑点米カメムシの注意報が出ていることから、出穂後の防除について薬剤選定や回数などについて注意を促している。

■大豆

難防除雑草の防除試験実施

近年増加している帰化アサガオやホオズキ類について、畝間除草剤散布による防除試験区を垂井町と輪之内町で設置した。また、JAと連携して海津市、養老町、垂井町でも試験を行っている。

■トマト

高温対策及び有機物の投入指導

23年産の定植が8月10日から開始された。猛暑の影響で低段の着果が心配されるため、農業普及課では、タイベックマルチや敷きわらの設置による地温抑制等、高温対策の実施をメルマガ等を通じて推進した。また、定植前後の手灌水による、深根安定生産も推進している。

温暖化の影響で、昨年から調査を開始した腐植(%)について、農業普及課では、個人・ほ場ごとの経年値データを配布し、意識を高めている（管内平均 昨年2.0→本年2.2と向上）。

放射性セシウムを含む堆肥等の取り扱いについては、「自粛」「暫定許容量の設定」「検査対象」のそれぞれの通知に対して、メルマガを用いて迅速に情報提供を行った。

■しゅんぎく

総会及び研修会の開催

平成23年産出荷実績は、出荷量200t(昨年比100%)、単価485円/kg(97%)、金額96,830千円(97%)であった。

24年産に向けて、部会員全員に対して作業場・農薬庫の確認を役員・JA担当者で行い、農薬事故・異物混入の無いよう、より強く取り組むこととなった。

8月4日に栽培研修会を開催し、農業普及課では、農薬の安全使用及び、炭そ病対策等について栽培指導を行った。農薬の散布量・使用量等について、それぞれの記帳票に面積

あたりの基準量を記入し再確認を行った。

■なし

なつしずくの収穫始まる

なつしずくの収穫は、8月3日から行われた。出荷量は約180kg、イオン各務原店で8月6、7日に販売された。大垣市内の梨直売所では、8月下旬ごろまで販売される見込みである。リピーターも増え、幸水と並ぶ早生品種の人気商品となっている。

農業普及課では、導入後間のない生産者支援として、カラーチャートと色彩色差計を用いた収穫支援を行った。

■フランネルフラワー

秋作の出荷開始

鉢花では、秋出荷の開花が始まっており、盆明けから出荷が始まった。

一方、切り花では、7月に切り戻したものが、開花を迎え、盆前に出荷が始まった。草丈・花の大きさが小さいが、株の状態としては良い状態を維持している。9月には、新年度向けに植替えをする予定である。



なつしずく着色目安



切り花の生育状況

担い手の育成・確保

■指導農業士及び青年農業士

飛騨地域の夏秋農産物視察

指導農業士会西南濃支部では、8月5日に視察研修会を開催し、農業士夫妻29人が参加した。JA飛騨トマト選果場とファーマーズマーケットを視察した。冬春中心の西濃地域と夏秋の飛騨地域の農産物との違い、予冷施設の充実状況や夏休みの学生アルバイトを上手く利用する状況など参考となった。

一方、西南濃青年農業士会では、8月9日に愛知県農業総合試験場で視察研修を行った。現地では作物、野菜、花きの3グループに分かれて各専門の研究者から説明を受け、様々な最新情報を得た。また、岐阜県とは試験規模が大きく異なることにも感銘を受けていたようであった。



圃場説明を受ける作物グループの青年農業士

■農業高校

農業高校懇談会が開催される

8月23日に大垣養老高校主催で、西濃地域の関係者が集う農業教育懇談会が開催された。参集者は指導農業士を始め、青年農業士、女性農業経営アドバイザーの農業者の他、西濃、揖斐の各農林事務所、農業協同組合、農業大学校、園芸アカデミーなどの関係機関と、大垣養老高校農業部の先生の間で今後の農業の振興と新規担い手の育成について活発な意見交換がなされた。

地域の動き等

■大垣市

大垣市農業ビジョン策定委員会の開催

8月5日に大垣市農業ビジョン策定委員会が開催され、委員となった市内の農業者、消費者代表などの意見交換が活発に行われた。農業普及課からも出席し、今後の農業振興について意見を述べた。

揖斐農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成23年8月31日現在

今月の重点活動

■柿

「袋掛け富有」の生産拡大をめざして現地研修会開催

8月11日に大野町かき振興会主催により袋掛け富有研修会をJAいび川大野営農センター及び柿狩園にて実施した。参集した生産者（66名）に対し、県庁農産園芸課、農業経営課（技術支援担当）及び農業普及課から、果宝柿の生産増に向けた働きかけ、袋掛けの方法や今後の栽培管理等について支援し、袋掛け富有柿の中から厳選した「果宝柿」の販売量拡大に向けて、意識統一を図ることが出来た。



「西村早生」の渋果調査を実施し、作柄について確認

8月23日、JAいび川大野営農センターにて西村早生の渋果調査を実施した。大野町内10ヶ所の園地から集められた500個の柿を振興会技術部員が切断し、渋果か甘果かの判断基準である種入り具合について確認した。



開花期前後（5月下旬～6月上旬）の天候不順で、例年に比べて甘果率が低い結果となったが、肥大は回復傾向にある。農業普及課ではJAと連携し、収穫・選果に向けて支援を行っていく予定である。

婦人部視察研修を支援

8月3日に大野町かき振興会婦人部の視察研修会が、西濃地域（陽豊柿、みかん経営及び鳥獣害対策）及び岐阜地域（ぎふクリーン農業研修センター及び農業技術センター）にて実施され支援した。当日は参加した28名の部員に対し、JAと連携して今後の柿産地活性化に向けた支援を行った。



主要農作物の生産振興

■水稻

早植水稻の収穫始まる

8月17日から始まった4月下旬植えあきたこまちの収穫をかわきりに、早植えコシヒカリやひとめぼれの収穫が開始され、カントリーの荷受けが始まった。

高温による白未熟粒の発生が懸念されたが、水管理等により昨年の早生品種に比べて品質は良好である。カメムシによる斑点米がやや目立つ。農業普及課で設置している水稻の展示ほについても坪刈り調査を実施した。



■水稻採種ほ

充実した種子生産に向けて研修会を開催

8月1日、8日にハツシモの良質種子生産に向けて現地研修会を開催した。昨年の種子合格率は30%と低かったことから、合格率100%を目指した今後の管理について説明した。現地圃場で生育状況を確認しながら、穂肥の適正施用や水管理など、充実した種子生産に向けた管理実施を徹底するよう支援した。

■大豆

ハスモンヨトウ発生量を調査

揖斐郡の大豆は、ぎふクリーン農業で生産されている。農業普及課では、揖斐川町と池田町にハスモンヨトウフェロモントラップを設置し、補殺数の調査を定期的の実施している。

現在、やや多めに推移しており、今後の調査結果を活用して防除適期を判断し、防除情報を発信する。

■かぼちゃ（活力ある新産地づくり支援事業）

先進地視察研修会を開催

8月1日にJAとの共催により先進地視察研修会を開催し、営農組織代表者と関係機関（JA、町、県）25名が参加した。高山市丹生川町の宿籾かぼちゃ研究会会長及び飛騨農林事務所担当者とともにかぼちゃ栽培圃場を視察し、肥培管理や販売方法を勉強した。土地利用型水田農業経営への新たな園芸品目（かぼちゃ）導入であり、営農組織関係者からは興味と関心を持って研修に望む姿勢が伺えた。今後、揖斐地域に合った栽培方法を確立し、営農組合の補完品目として推進していく予定である。

■小菊

新規加入者、来年の苗作りを学ぶ

8月25日に久瀬花き生産組合が、小菊の苗作り研修会を開催した。今年新たに2人が小菊栽培を始めたが、6月咲きの苗作りは初めてのため、良い芽の選び方や挿し芽の方法について実際に生産者の作業を見ながら習得した。

農業普及課からは品種特性表や登録農薬などの資料を提供し、新規加入者は、適正な農薬使用について理解を深めた。



■茶

放射性物質によるリスク回避 — 肥料資材の安全確認 —

茶生産では8月下旬が秋肥の施用時期であり、肥料に含まれる放射性セシウムの暫定許容値が400ベクレル/1kgに設定されたのを受け、各生産組合に組合員への周知について支援し、肥料の安全確認、記帳の徹底を啓発・誘導した。

組合では啓発チラシにより周知徹底を図るとともに、肥料の安全確認、使用肥料の制限を行い安全に期している。茶は、他品目と比較して有機物・肥料の量が多いため、今後も情報収集に努め継続的に支援を行う必要がある。

担い手の育成・確保

■集落営農組織

集落営農推進に向けた取り組み、獣害対策研修も実施

8月25日に揖斐川町坂内広西集落で集落営農研修会が開催された。当地区では集落営農担い手発掘サポート事業を実施しており、本研修会では意向調査アンケートの進め方の説明後、県から派遣された支援チームより鳥獣害対策の事例紹介などが行われた。今後、集落営農サポーターの聞き取り等による意向調査が行われる。



■揖斐地区女性農業経営アドバイザー

農業女性交流会を開催

8月3日、揖斐地区女性農業経営アドバイザーが、地元の若手女性農業者や若手農業者のお嫁さん等に呼びかけ、託児も設けて農業女性の交流会を開催した。

当日は25名の出席で、アドバイザーが持ち寄った生産物を使用したパン作りを行った。パンの試食をしながら和やかな雰囲気での交流を図ることが出来た。農業普及課では、今後も同様の交流会が開催できるよう支援する。



中濃農林事務所農業普及課普及活動状況

平成23年8月29日現在

今月の重点活動

■活力ある新産地づくり農産物（さといも）

円空さといもの生産状況

8月の高温干ばつにより、葉焼けが見られた。
また、ハダニ類、ハスモンヨトウの発生が見られたので、対策資料を作成し、畝間灌水、害虫防除について指導を行った。



8月中旬のさといもの様子

円空さといも生産振興会議

8月24日に、円空さといも生産振興会議を開催した。会議では、円空さといもの販売方法、円空さといもの団地化等について検討し、贈答箱の作成とともに、来年度の団地化に向けた準備を進めることとなった。

さといも先進地視察

中濃里芋生産組合では、8月5日に、さといもの先進地視察として、山梨県甲斐市の「やはたいも」の取り組みについて研修した。

単収は1.2t/10a前後で、それほど多くはないが、平均単価は400円/kgとかなり高く、販売方法について工夫する必要性を再認識させられた。



さといも先進地視察

主要農作物の生産振興

■大豆

開花は前年並み

盆明けから開花が始まっている。生育は順調で、今のところ病虫害の発生も少ない。莢へのカメムシ被害を軽減するため、農業普及課では、防除時期、薬剤等について情報提供し、大豆生産を支援している。



順調な生育を示す大豆

■水稻

収穫始まる

早生品種（あきたこまち、コシヒカリ等）の収穫が始まり、ライスセンター等も稼働し始めている。品質の良い米生産を図るため、農業普及課では、刈取時期を判断する目安となる積算温度情報を生産者、JAに提供し、適期収穫を支援している。

■なす

なす共同出荷折り返し

6月末に始まった共同出荷が折り返し地点を迎え、出荷期間の後半に入っている。5月初めの定植以降、1ヵ月ほど低温で推移したこともあり、生育と収穫は遅れ気味となったが、6月下旬からの気温上昇に伴って生育は回復し、現在のところ昨年並みの出荷量となっている。

昨年発生が多かった褐色腐敗病の被害は少なかったが、カメムシ類、ハダニ類、鱗翅目幼虫など害虫の被害が散見され、最近ではボケ果の発生も見られるようになっている。

10月いっぱい出荷を継続し、十分な収量が確保できるよう、施肥管理や病虫害防除など

の基本技術の励行について、引き続き支援していく。

■いちご

いちごの育苗状況

現在、窒素中断の時期となっており、9月からのいちごの花芽分化が始まる時期に合わせて、花芽検鏡を行い、適期定植など定植期以降の管理について支援を行っていく。

担い手の育成・確保

■経営者協会活動

視察研修を実施

中濃農業経営者協会(愛称：中濃LAC)は、8月2日に、県内優良事例の視察として、高山市、飛騨市における取り組みを研修した。

高山市では、夏秋トマトの大規模経営並びに営農組合の飼料米のWCSへの取り組みを、また、飛騨市の県中山間農業研究所では、鳥獣害に強い作物とその6次産業化について研修し、中濃地域での取り組みについて意識を新たにすることができた。

今回の実施にあたっては、視察内容の検討、視察先の選定等について、農業普及課が飛騨農林事務所と連携して支援した。



夏秋トマト経営の視察

■関市内認定農業者

家族内でのルールを明文化

関市の認定農業者Mさんは、米、麦、大豆、里芋、花きなどを生産しており、農業面や暮らしにおける「わが家のルール」を話し合い、家族経営協定を作成された。経営主夫妻と後継者夫妻の4人で、経営の責任分担や労働条件などを確認して文章化した。

8月22日に、地元農業委員や関市、JA、農林事務所の立会のもと、調印式を行い、「今後一層気を引きしめ、後継者ととともに農業経営に取り組みたい」と決意を表明した。

地域の動き等

■かみのほ特産品加工組合

先進的女性起業活動調査

8月26日に、かみのほ特産品加工組合役員が、他地域の女性起業グループの活動を調査して経営に役立てようと、郡上市内の(有)アグリネットワークあすなろを視察した。

アグリネットワークあすなろは、郡上市大和町の道の駅で農村レストランを経営しており、郷土料理を提供したり、郡上市内の女性起業グループが手がける加工品のアンテナショップの役割を担っている。視察後、地域農産物を活用した加工品や料理、グループ運営の方法について、参考になることが多かったとの感想が聞かれた。



熱心に話を聞く組合員

■道の駅美濃にわか茶屋生産者の会

農薬安全使用研修会の開催

8月9日に、道の駅「美濃にわか茶屋生産者の会」において、農薬の正しい取り扱いについて研修会が開催され、農業普及課からは、「無登録農薬は使用しない」「農薬の使用基準(希釈倍率、使用時期等)を遵守する」「農薬使用時は防除日誌に記帳する」等について説明した。

生産者の会では、消費者に安全・安心な農産物を提供するため、これから始まる秋野菜においても、より一層農薬の適正使用に努めるよう意識を高めることができた。

郡上農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成23年8月31日現在

今月の重点活動

■大豆

大豆摘芯栽培実演会

郡上市美並町で栽培されている大豆のフクユタカは倒伏しやすい品種であるため、倒伏防止を目的とした摘芯栽培の実証を行っている。

作業開始となる8月24日には、生産者、JA、県関係者等集まり、静岡県の農業機械メーカーの協力を得て摘芯機による実演会を開催した。当日は、メーカーによる摘芯機の説明の後、実際の摘芯作業の実演を行った。



メーカーによる摘芯機の説明

主要農作物の生産振興

■活力ある新産地づくり支援事業（夏秋いちご）

夏秋いちごプロジェクト会議開催

夏秋いちごは、新たな「ぎふ農業・農村基本計画」の中でトップブランド候補品目に挙げられており、県では各関係機関が連携し、更なる産地拡大を進めている。そこで県では8月8日に「夏秋いちごプロジェクト会議」を開催し、市やJA、全農などの関係機関とともに今後の推進方針について検討した。

また、当日は、郡上地域の実証ほ等の現地検討も行った。

農業普及課では、郡上地域の産地育成計画について説明し、地域における現状や課題、目標等について情報共有した。



実証ほ現地検討

■活力ある新産地づくり支援事業（にんじん）

販売促進PR

郡上市高鷲地内の農業生産法人が8月20～21日に名古屋市熱田区金山町の金山駅南口で農産物の販売促進PR活動を行った。当日は曇雨天で涼しい天候だったが、春まちにんじんジュースがマスコミで取り上げられた影響で、想定した数量以上のジュースが売れた。



マルシェジャポンでの販促進

■だいこん

大量出荷

ひるがの高原だいこんは、8月以降前年比150%の市場出荷量となり、需給バランスが崩れ、市場出荷価格が低迷し問題となっている。このため、スティックだいこんや千切りだいこんに胡麻ドレッシングで気軽に食べるだいこんサラダなど冷涼感のあるレシピを消費者に提案し、消費拡大を計画している。また、産地PR用のDVDを量販店の販売コーナーへ設置し、消費活性化に取り組んでいく予定である。

かん水機材の利用

ひるがの高原だいこんでは、今年3月に農林水産省の異常気象対応型園芸産地強化事業で導入したかん水機材装置が現場で活躍している。品質は、かん水機材の活用で大幅に向上しており、今後の産地振興に寄与するものと思われる。



かん水機材の利用

■大豆

大豆カメムシ調査

農業普及課では、昨年度、カメムシ被害によって大幅な減収となった地区を対象としてフェロモントラップ等による発生状況調査を行っている。今年のカメムシの発生は昨年より少ないと思われていたが、調査の結果、8月下旬以降増加の傾向が見られたため、防除を行うこととした。今後も発生状況調査を継続し着実な防除につなげる予定である。

■山菜

タラの芽の新規栽培者を育成

今年度から和良町で新たに3名のタラの芽栽培が始まった（約35a増）。タラの芽は従来、4月に種根を植えて栽培を開始するが、病害等により活着が悪い事例が多い（通常40～50%）。このため育苗した苗を購入して定植する方法を採用した。夏季の強日照により葉焼け等が発生したが、約85%の活着率を得た。

■トマト

研修会

農業普及課では、8月9日、10日、12日にかけて、夏秋トマトの地域別研修会を実施した。株の状態を見ながら、摘心前に行わなければならない肥培管理について指導を行った。



出荷目揃会

8月24日に郡上総合庁舎の大会議室で目揃会及び研修会を行った。午前中に摘心前に行う肥培管理について、優良事例の写真を交えて研修を実施した。



午後からは市場の関係者を招き、トマトの出荷規格について情報交換を交えながら目揃いを行った。

■南天

高温干ばつ対策にスプリンクラー設置

南天栽培ほ場に高温干ばつ対策のためのスプリンクラーを設置した。スプリンクラーは昨年度の高温干ばつ対策として導入を行い、JA主体で設置を行った。

今後、高温干ばつ状態となった際に調査を行い、その効果を確認した後に他の生産者への普及を目指す。



スプリンクラー設置

担い手の育成・確保

■女性農業経営アドバイザー

市長さんと語る会開催

女性農業経営アドバイザー郡上地区では、恒例行事となっている「市長さんと語る会」を8月31日に開催した。市のほかにJAと農林事務所も出席して「食農教育」と「農村女性の社会参画」をテーマに意見交換を行った。農業の重要な担い手である農業女性の率直な意見や提案、要望等が積極的に出された。農業普及課では、企画や運営について助言等を行った。



積極的な意見交換の様

地域の動き等

■郡上市全域

産地づくりと担い手育成に係る現地検討会

8月31日に郡上農林事務所関係職員と地元県議、市長、市農林部課長が参加し、郡上地域の産地づくりと担い手育成に取り組んでいる農林業者を視察し現地検討会を行った。肉牛経営農家では、全国和牛能力共進会出品に向けた意気込みを語られた。また、トマト経営農家では、担い手育成の取り組みや将来の経営拡大の構想について熱く語られた。このほか、木材センター、鶏肉加工所、原木しいたけ生産施設を現地視察した。

可茂農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成23年8月31日現在

今月の重点活動

■ 集落営農担い手発掘サポート事業

「室山集落を考える会」開催

白川町下佐見室山集落において、7月22日と8月4日に「考える会」を開催した。集落側からの要請を受け、「グリーン・ツーリズム」及び「鳥獣被害対策」研修会として、それぞれ農村振興課河尻技術主査及び酒井鳥獣害対策監から活動事例や活動上の留意点等について情報提供を受けた。9月には岐阜大学学生との「稲刈り・はさ掛け体験及び集落住民との交流会（集落の“魅力”再発見）」を開催することとし、準備を進めることとなった。今後とも支援等を継続する。



今後の集落活動について話し合う

主要農作物の生産振興

■ 活力ある新産地づくり支援事業（青ねぎ）

坂祝町青ねぎ生産部会の先進地視察研修会

7月15日、坂祝町青ねぎ生産部会と坂祝町役場・JAめぐみの美濃加茂SC・農業普及課にて産地戦略会議を開催し、今後の産地振興策について検討した。会議では、最近の価格低迷を受けて「加工用白ネギについても何らかに対応すべき」との意見があり、産地育成計画を作成した。また、夏場の病害対策実証に加えて、セル育苗による年内安定収穫技術の確立を図るべく、セル苗の試験生産を進めることとなった。



ほ場での調査の様子

■ 大豆

開花期～着莢期

管内では本年度約87haの栽培が行われている。中山間地域（約20ha）では、着莢期を迎えており、平坦地（約67ha）については、降雨の影響で出芽不良や播種の遅れも認められるが、8月中旬で播種作業が終了した。今後も生育状況を随時確認し、栽培管理支援を継続する。

■ トマト

トマト中間目揃会実施

美濃白川夏秋トマト部会の第2回目出荷目揃会が、8月4日に開催された。出荷規格の再確認と実証ほ場での栽培研修会を実施した。8月17日現在の本年度出荷実績は、出荷量が前年比で128.9%となっている。東白川トマト収穫体験ツアーは、トマト産地のPRを兼ねて7月29日から4回実施された。7月30日に各務原市の量販店で販売促進活動を支援した。



販売促進活動（各務原市）

■ 梨

収穫本格的化へ

早生梨の収穫が始まり、本格的な収穫時期を迎えつつある。本年は「幸水」を中心に早生梨の熟期が例年に比べ10日程度遅く、「幸水」は盆前出荷がほとんどできなかった。果実の肥大もやや不良で、若干小玉傾向の収穫となっているが、食味は梅雨明けが早期であったため良好である。病害虫に関しては、比較的少ないが、農業普及課では、今後とも注意を喚起していく。



収穫を待つ幸水

■ 茶

関西茶品評会審査会結果

管内からは17点が出品され、二等に6点、三等に7点が入賞した。

担い手の育成・確保

■ 集落営農組織

白川町集落営農大豆栽培研修会

7月22日に白川町集落営農組合連絡協議会主催により、本年度、大豆生産に取り組む8つの集落営農組合を対象とした大豆栽培研修会が開催された。当日は、関係者約30名が各組合のほ場を巡回し、各地区の大豆の生育・栽培管理（排水対策、中耕培土等）について確認するとともに、品種試験の実施状況についても情報共有した。



現地ほ場を巡回し、検討

■ 就農塾

夏秋なす就農塾開催（美濃加茂市）

8月11日にJAめぐみのが事務局となっている地域就農支援協議会主催の就農塾（夏秋なすコース）の第4回現地研修会が、美濃加茂市内ほ場で開催された。研修会では、収穫方法の実習の他、昨年度の出荷実績や生産者の経営成果を示し、80才の高齢者が150本程度の小規模でも、100万円以上の売上げがあることなどを説明した。



就農塾の様子

■ 全農いちご研修所

全農いちご研修所卒業生の栽培設備完成

平成23年度の全農いちご研修所の卒業生が、地元的美濃加茂市でいちご経営を開始することとなり、農業普及課では補助事業や就農支援資金の利用にかかる支援や育苗の指導をおこなっている。8月1日には、補助事業によるハウス設備が予定どおり完成し、JA・市役所とともに現地を確認した。



確認作業の様子

■ 指導農業士

農業大学校生の派遣学習受入れ

指導農業士の竹川氏は2年生のS君を、7月25日から8月26日まで受け入れた。S君は非農家出身ではあるが、竹川氏の指導を受けながら、夏秋トマトの管理をたいへん熱心に研修している。竹川氏も「生産技術だけでなく、農家生活を体験できたことは、必ず役立つことがある。」と、今後に期待している。



竹川氏と農大生

担い手の育成・確保

■ 可見市

地元産大豆を利用した豆菓子「可見っ子大豆 カリッコ」商品発表会に向けた支援

(有)土利夢ファーム可見は、可見市産大豆（品種：フクユタカ）を使用した特産品として豆菓子「可见っ子大豆 カリッコ」を完成させた。9月10日からの直売所や道の駅等での販売に先立ち、9月2日にJAめぐみの可見本部において、地域の農業者や行政・関係機関等約50名を集め、商品発表会の開催を予定している。商品発表会では、(有)土利夢ファーム可見の活動をはじめ、豆菓子の製造・販売に至った経緯などが紹介される。農業普及課は、これまで商品開発を支援してきたが、今後は販売面においても支援を継続する。

■ 白川町

農林委員会視察対応

県議会農林委員会による白川町の「佐見とうふ 豆の力」の視察があり、農業普及課、白川町役場、「豆の力」代表から、それぞれ「大豆生産の現状」、「事業の概要」、「とうふ作りの現況」について説明した。白川町産大豆を100%使用した「佐見とうふ」の試食も行われ、委員からは「おいしい」・「もっと広く売り出せないか」等の意見も出された。今後とも、農業普及課では、大豆生産の安定化に向けて支援を続ける。

東濃農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成23年8月31日現在

今月の重点活動

(ブロッコリーのミニ産地づくりに向けて)

ブロッコリーを対象品目として取り組んでいる、活力ある新産地づくり支援事業では、既に出荷実績を持つ農業生産法人において、栽培管理の技術実証を進めるとともに、面的な拡がりを推進するため、新規栽培者への普及に取り組んでいる。

多治見市では、農業生産法人が、2品種の播種・育苗に取り組み、順次定植を進めているほか、新規生産者として多治見農産物直売所のメンバーも展示ほかに播種・定植を開始し、順調な滑り出しとなっている。

7月から開催されている「野菜づくり塾」においては、30名の塾生が、育苗技術習得に取り組んでいる。第1回播種分は、高温期であったため、管理場所や水管理に十分留意できなかった塾生を中心に発芽不良がみられたが、その後の播種では、順調に生育している。

一方、土岐市鶴里町の集落営農設立準備会等では、営農組織の補完作物としてブロッコリーの導入を検討するため、ブロッコリーの試験栽培を開始した。こちらも生育は順調である。

それぞれの栽培面積は、多治見市の農業生産法人を除き、10a未満でごくわずかであるが、東濃ならではの「ミニ産地」づくりを目指し、栽培者の確保と展示ほ設置による基本技術の習得支援、量販店との意見交換等流通支援の普及活動を展開していく。



育苗の状況



生育調査の様子

担い手の育成・確保

■水稲

(水稲の収穫始まる)

あきたこまちの収穫作業が始まり、多治見市のライスセンターが8月27日から受け入れを開始した。

8月後半は、大気の状態が不安定で降雨日が増加し、22日から26日にかけて、多治見市で、いもち病発生の準好適環境が4回発生した。その後、天気は回復傾向にあるため、あさひの夢でも登熟は順調に推移しているとみているが、今しばらく、注意が必要と考えている。

今後、コシヒカリの収穫最盛期へと続くため、登熟積算温度による成熟期予測を行い、適期収穫の実施を呼びかけていく。

■大豆

(適期防除を支援)

主要品種であるフクユタカが、8月7日から23日にかけて開花期となった。29日には着莢期となり、順調に生育している。

農業普及課では、カメムシの防除適期である9月上旬及び中旬の2回防除をするよう提案している。

担い手の育成・確保

■土岐市鶴里地区集落営農設立準備会

(集落アンケート実施へ)

耕作放棄地（遊休農地）再生・集落営農組織設立・学校給食への地元野菜供給の3本柱で協議を重ねている準備会では、8月24日に鶴里公民館において、第2回会合を開き、今後の活動について検討した。

その結果、集落内全農業者を対象とした集落アンケートの実施を決定した。集落営農の是非を問う重要なアンケートとなるが、10～11月にかけて回収・集計し、鶴里の営農組織の在り方を検討する材料とするとともに鶴里農家台帳を作成することとしている。

また11月には先進地視察を行い、営農組織設立の経過や運営のノウハウ、遊休農地の活用方策等について研修することにした。

農業普及課では、これらの企画支援、関係者のコーディネート等、支援している。



準備会会合の様子

地域の動き等

■土岐地区農業経営者協会

(新規就農者を交えた視察研修会開催)

土岐地区経営者協会は、土岐地域農業普及推進協議会との共催で、8月24日に経営情報の収集と仲間づくりを目的とした視察研修会を実施した。同協会では、過去2年間の新規就農者と就農準備者を対象に、東濃西部地域の農業に触れ、理解してもらうための交流会を実施してきたが、今年は、新規就農者に加え、会員の技術研鑽・経営情報収集にも資するよう、野菜の水耕栽培を行う(株)中津川種苗、六次産業化に取り組んできた(株)菜っちゃん、そして中山間農業研究所中津川支所を視察先とした。

(株)中津川種苗では、栽培システムの運用や販売にいかにかに努力しているか等について、また(株)菜っちゃん社長からは、起業に至った経緯と社会参画について、さらに中山間農業研究所では、研究課題の概要について説明を受けた。各会場では、新しい技術に触れ、多くの質疑応答が展開されるとともに、昼食時には、おいしい創作料理に舌鼓を打ちながら、協会員と新規就農者との交流が行われるなど、農業経営者の仲間づくりに一役担えた研修となった。



(株)中津川種苗にて



中山間農業研究所

■瑞浪市

(半原かぼちゃ反省会)

半原かぼちゃの出荷が8月10日に終了し、8月27日に反省会が開催された。反省会には、菜果プリンを製造する川上屋からも担当者が参加した。

今年度の出荷量は、天候の影響等で雌花が少なくなり、前年比67.5%と少なかった。

農業普及課では、排水対策の徹底や干ばつ時の灌水等の対策とともに、生産履歴の記帳の必要性について強調し提案した。

恵那農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成23年8月31日現在

今月の重点活動

■優良種子生産

雨ニモ負ケズ、夏ノ暑サニモ負ケズ～採種ほ場審査たけなわ～

恵那市三郷町は県下最大の水稻採種地区であり、主要農作物種子法に基づくほ場審査がピークを迎えている。8月は、コシヒカリの出穂期審査及びあきたこまちの糊熟期審査の時期に当たり、農業普及課では関係機関との連携のもと、ほ場審査員として、異品種の混入や雑草及び病害虫の発生の有無、生育状況の良し悪しについて審査を行い、良質種子の生産に努めている。



異品種は見逃さない！ほ場審査

主要農作物の生産振興

■活力ある新産地づくり支援事業（ブロッコリー）

面積拡大に向けた試金石～半自動移植機の導入実証～

恵那地域では、2年前から集落営農組織の経営補完作物としてブロッコリーの導入が進んでおり、本年は約1.3haで栽培が行われている。

ブロッコリー栽培では、営農組織が面積を拡大していく上で移植作業の機械化を視野に入れておく必要があることから、8月12日にJAや営農組織が見守るなか、メーカーの協力を得て実証試験を行った。

農業普及課では、今回の実証を基に、導入の可能性について関係機関とともに検討を進めていく予定である。



半自動移植機の実演

■活力ある新産地づくり支援事業（クリ）

クリ新規栽培者確保に向けて、東美濃クリ栽培見学ツアーを開催

JA東美濃と東美濃栗振興協議会が主催する「東美濃クリ栽培見学ツアー」が8月21日に行われた。クリ栽培に興味がある方や始めようと考えている方5名が、中津川市でクリ栽培を開始した農家やベテラン農家等を訪問し、産地の生産・出荷販売の仕組みや基本的な栽培技術を学んだ。

農業普及課からは、クリの剪定方法、幼木が枯れる凍害の対応方法やクリ産地拡大の取り組みについて説明を行い、見学ツアー参加者は、クリ栽培に対する理解を深めた。

地域のクリ産地では、5年前から拡大プロジェクト活動を展開し、栽培面積が拡大している。今回の見学ツアーの参加者のうち2名は、新たにクリを植栽する意向があり、その取り組みが東美濃クリ産地拡大に結びついてきている。



クリ栽培農家の訪問風景

■大豆

収量増に向けた新たな取り組み～大豆摘心栽培の実証～

恵那地域では、集落営農組織を中心に大豆栽培が行われているが、播種作業が梅雨期間中にあたるため、一部のほ場では適期より早めに播種を開始している。

農業普及課では、こうしたほ場での倒伏・蔓化を防止し単収の向上を図るため、主茎の先端を切除する摘心栽培の実証を8月3日に中津川市蛭川で開催した。関係者が見守る中、作業はトリマーを使用して10aを50分ほどで終了し



トリマーを用いた摘心作業の様子

た。今後は11月に収量調査を行い、効果の確認を行う予定である。

■いちご

恵那・中津川における今年のいちごの状況

管内では東美濃いちご生産協議会（会員13名）のほか、法人・個人を含め約3haのいちご栽培が行われており、今年は今新規栽培2名を含め昨年から20aの面積増が見込まれている。今年の育苗については、一部で炭疽病が多発し苗不足を生じたが、その他はほぼ目標の苗確保ができています。

農業普及課では個別巡回の他、8月24日に研修会、9月上旬にかけて花芽分化・葉柄中窒素濃度調査を行っている。管内の品種は章姫・紅ほっぺが定着、標高700mのほ場では既に8月20日頃の花芽分化を確認した。300m地帯でも夜間25℃以下で経過しており、9月5～10日頃の花芽分化、定植となる見込み。



東美濃いちご研修会8/24の様相

いちごは近年生産が増えている品目の一つであり、個人販売も多いが、22年度の共同出荷量も前年比20%の伸びを示しており、農業普及課では、今後も寒冷地である当地域に合った生産技術の確立と生産拡大支援を行っていく予定である。

■花き（シクラメン）

暖地に学ぼう！ 恵那花き研究会が愛知県シクラメン産地を視察

恵那地域では、シクラメンや洋ランなど冷涼な気候を活かした鉢花生産が営まれている。しかし、夏季の暑さが厳しい年は、根の張りが十分でない株や病害が一部の生産者で発生するなど問題となっている。

こうした課題を解決しようと、恵那花き研究会では、8月30日に愛知県春日井市と豊川市のシクラメン生産ほ場を視察した。

参加者は、かん水方法や肥料の与え方、病害防除の方法などを聞き取りされ、どちらのほ場も暑い地域でありながら上手く夏越しされて当地域と変わらない生育をしていることに感心されていた。



説明を聞く参加者

担い手の育成・確保

■トマト・なす

夏秋トマト・夏秋なす栽培見学ツアー開催 ～トマト・なすの新規生産者確保～

東美濃夏秋トマト生産協議会及び東美濃夏秋なす生産協議会では、新規生産者の確保を目的に、8月28日に夏秋トマトと夏秋なすの栽培見学ツアーをそれぞれ開催した。

今年度はトマトコースで8名、なすコースで11名の参加があり、各コースに分かれて選果場及び生産者のほ場を見学した。特に生産者のほ場では、生産者から直接栽培管理等に関わる説明を受けたことで、参加者らは新規生産の取り組みを身近に感じている様子であった。

農業普及課では協議会活動の運営支援として本ツアーに関わっている。当日も移動中の車内で、協議会役員と参加者の関わりが深まるよう取り計らい、翌年からの生産出荷活動に加わっていただけるよう努めた。

生産者の高齢化等による産地縮小が危惧されるが、チャレンジ塾と併せ、生産者組織による新規生産者育成事業として、活動の継続と成果が期待される。



栽培内容の説明を受ける参加者

下呂農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成23年8月31日現在

今月の重点活動

■活力ある新産地づくり支援事業（「龍の瞳」）

下呂地域産地戦略会議開催

下呂地域では、活力ある新産地づくり支援事業として、「龍の瞳」を対象に活動を行っており、8月12日に下呂地域産地戦略会議を開催した。

参集者は龍の瞳生産組合の代表者をはじめ、市、JA担当者が出席し、本年度の年間計画及び今後の3カ年の事業計画等について意見交換を行った。

組合側からは、10月頃に米のコンテストを開催したいとの要望があり、関係機関での役割分担、タイムスケジュール等について協議した。

農業普及課としては、龍の瞳生産組合の活動支援を行うとともに、下呂市の農業活性化に繋げていく。



下呂地域産地戦略会議（下呂総合庁舎）

主要農作物の生産振興

■夏秋トマト

目揃え会開催

下呂夏秋トマト生産組合では8月30、31日に3つの地域に分かれて研修会を開催した。

研修会では、地域内のトマト栽培ほ場を見ながら行っており、8月は目揃え会も同時に行った。

農業普及課としては、灰色かび病等の病害が増えているため、9月以降の栽培管理の徹底を呼び掛け、現在着果している果実を落とさないよう防除の徹底、9月下旬以降の温度管理に注意する等と呼びかけた。



目揃え会風景（下呂市野尻）

■ほうれんそう

現地研修会開催

下呂ほうれんそう生産組合では、8月4日に下呂市門和佐で現地研修会を開催した。

研修会では、現地でほうれんそうの栽培状況を確認しながら、ズルケ等の事故品を出さないよう栽培面や収穫調整での注意事項等、8月の栽培管理について確認を行った。

また、安全・安心な農産物づくりのために生産履歴やGAP（農業生産工程管理）等についての講習も行われた。

■新規需要米

飼料用米生産者説明会開催

下呂地域では、本年度約20haの飼料用米を作付している。8月8～11日に収穫、出荷に向けて、萩原・小坂、馬瀬、下呂、金山地区の4地区で生産者説明会が開催された。

生産者説明会では、出荷における取引の流れや納品方法、現在の生育状況等について説明が行われた。

これまでのところ、生育は大きな問題も無く順調にきている。

農業普及課としては、収穫に関連した技術支援を行うとともに、次年度以降の安定生産に向けたデータ集積等を行っていく。



ほうれんそう研修会（下呂市門和佐）



飼料用米生産者説明会（萩原町）

担い手の育成・確保

■ 新規就農者

新規就農計画検討会開催

8月2日にJAひだ竹原支店で新規就農計画検討会が市、JA、県等の関係者15人が集まり開催された。

今回の会議では、下呂市でほうれんそうの新規就農を希望する人から提出された就農計画を検討し、認定就農者として認定するかどうかを検討した。

検討の結果、認定就農者に認定することとなった。農業普及課では、今後も円滑に新規就農ができるように支援をしていく。

※ 認定就農者制度とは

新たに就農を希望する人がいつ、どこで、どのような農業をはじめるといった目標やその実現のための研修や資金調達を就農計画として作成し、この計画について県知事が認定する制度で、この制度で認定された人を「認定就農者」という。認定就農者のメリットは、就農のための無利子の資金の融資の受ける資格となること、就農計画の目標達成に向けて農業普及課や市町村の指導を受けること等ができる。



新規就農計画検討会（下呂市宮地）

下呂地区農業後継者交流会開催

8月3日に下呂市内で下呂地区指導農業士会主催による下呂地区農業後継者交流会が開催された。参加者は、新規就農予定者、農業大学校からの研修生、下呂市出身で他地区の農家で研修している研修生など下呂地区の農業後継者等4人を含め、関係者30名であった。

下呂地区指導農業士会長のあいさつ、地元県議及び副市長からの激励の言葉の後、農業後継者等の4人の紹介があった。4人は、1人ずつ農業に対する抱負を語った。

当日は、下呂温泉祭りの最終日でもあり、花火を見ながら、出席者同士で下呂市の農業についてあつく語り合った。



農業後継者交流会で農業への気持ちを語る新規就農予定者（下呂市幸田）

飛騨農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成23年8月31日現在

今月の重点活動

■活力ある新産地づくり支援品目（飛騨黄金）

「飛騨黄金」出荷始まる！

7月22日、黄金神社にてJAひだ花卉出荷組合菊部会主催による「豊穰祈願祭」が行われた後に、高山市の上切集荷場にて「出荷目揃え会」が開催され、約60名の関係者が出席した。

今年の「飛騨黄金」の出荷は7月中旬から始まり、8月11日までに約40万本（全体の約75%）が出荷された。最終的には昨年と同等以上の出荷となったが、曇天続きで蕾の発達が遅く、気を揉む状況で推移した。

今後、農業普及課としては、今から来年に向けての苗作りやほ場準備、今年発生が多かったアブラムシ対策等を検討する。



黄金神社参拝（高山市）

■活力ある新産地づくり支援品目（宿儺かぼちゃ）

宿儺かぼちゃ出荷始まる！

8月1日、高山市役所丹生川支所にて宿儺かぼちゃの出荷目揃え会が開催され、研究会員及び市場等関係者約100名の参加のもと出荷規格の確認を行った。

早い梅雨明けという天候にも恵まれ、今のところ疫病の発生は少ない。出荷最盛期にむけ、仕上げ防除の徹底により、15,000ケース（前年対比143%）の出荷を目指している。



目揃え会（丹生川町）

主要農産物の生産振興

■飛騨トマト

後半の出荷量確保がカギ！

今年の飛騨トマトは、低段から中段にかけて着果状況が良好で、8月中旬までの出荷量は前年比111%と、順調に伸びてきた。

中段から上段にかけても概ね玉は着いており、まだまだ出荷が見込めるものと考えられていたが、8月後半の天候不順で、灰色かび病による減収が強く懸念される状況となっている。

そこで、農業普及課としては、JAひだ営農指導員と連携して、主に灰色かび病対策（発病源の除去、ローテーション防除）を中心とした今すぐにやるべき作業を生産者に情報提供した。

飛騨トマト部会の目標である「単収1t増加」を達成するには、これから後半の出荷量確保がカギを握る。最後の1玉まで出荷しきれよう農業普及課では、今後も支援を継続する。



上段も玉が着いている様子

■飛騨ほうれんそう

品質変化調査（産地内着荷調査）を全域で一斉実施！

飛騨ほうれんそう部会では、事故品・クレーム品を減らす取り組みを以前から行っているが、新たな取り組みとして品質変化調査（産地内着荷調査）を全支部で行った。8月1日に出荷



調査する部会役員等（高山市）

した全生産者からサンプル（1袋）を回収し、変温管理（基本は予冷庫に入れるが一定期間常温で保管）し、2日後（8月3日）の品質の変化を調査するもので、各支部で役員、普及指導員、JA職員らによりA～Cランクに品質判定をした。個々の生産者に直接サンプルを返却しながら結果（品質の問題点）を伝えることにより、生産者が自分の出荷物の品質状況について客観的に見ることが出来ることと、生産者が記入した栽培概要や保管状況と照らし合わせることで、今後、品質低下を招く要因や対策が導かれることが期待される。

担い手の育成・確保

■高山市

就農体感ツアーを開催！

7月30日から8月1日の3日間にかけて、高山市主催による就農体験ツアーが開催された。

この取り組みは、高山市が移住と就農をセットで進めようと3年前から実施しているもので、当日は関東や美濃方面から参加した11名が丹生川町のトマト農家で半日の農作業を体験した。さらに、管内の新規就農者との意見交換や農場を見て回り、就農に向けた意識を高めた。

今後は、就農に前向きな参加者を対象に短期研修を行うなど、就農移住の実現に向けた具体的支援を行っていく。



作業の説明を受ける参加者
（丹生川町）

地域の動き等

■高山市荘川町

そばの生育順調！

8月24日、生産者とともに圃場を巡回し、荘川そばの生育状況について確認を行った。

今年は梅雨明けも早く、天候に恵まれたこともあり生育は今のところ順調である。開花後の授粉時に発するそば独特の臭いもしっかり感じられ、成熟の早い圃場では収穫間近となり、結実量も多い。

また、今年の一部の圃場で堆肥の有無を比較した結果、明確な生育差（堆肥を入れた方が旺盛）を確認できた。今後は、そばの実を確実に収穫できるよう適期収穫に向けて支援を行う。



花満開のそば畑（荘川町）

今後の主な行事予定

- ・ 9月3日（土） 飛騨トマト就農体感ツアー（高山市丹生川町、滝町）

県内の産地の動きと専門普及指導員活動状況

農業経営課技術支援担当
平成23年8月31日現在

1 専門普及指導員としての活動、指導内容（対策、支援等）

（1）効率的・効果的な普及活動の支援

◆夏秋イチゴ推進プロジェクト会議の開催

8月8日、JAめぐみの高鷲支店会議室で、生産・販売額1億円を目指した夏秋イチゴ産地づくり及び強化について、行政、農協、流通販売、試験研究、普及指導関係者を参集してプロジェクト会議を開催した。

岐阜県の夏秋イチゴは、平成14年頃から郡上市高鷲地域を中心に飛騨地域も含めて取り組みが始まり、現在産地づくりに向けた活動が進められている。会議では、県オリジナル品種の育成状況や、種苗の安定供給、体制のあり方、新たな作型の提案、選果場の拡充、販売戦略など出席者により活発な意見交換が行われ今後取り組むべき課題について確認することができた。

◆アスパラガス拡大プロジェクト会議の開催

8月29日、JAぎふ正木支店会議室で、生産・販売額1億円を目指したアスパラガス産地づくりについて、行政、農協、試験研究、普及指導関係者を参集してプロジェクト会議を開催した。

岐阜県のアスパラガスは、平成15年頃に雨よけハウスを利用した“立茎栽培”が導入され面積が拡大しているが、地域の直売所への出荷が中心となっており市場出荷を目指した普及拡大が課題となっている。そこで関係者が一堂に会して、羽島市での生産状況と生産数量向上への取り組みを視察するとともに、他県での先進的取り組み辞令等の普及指導員の研修報告等を参考に、今後の普及拡大への具体的な行動計画の検討を行った。（野菜担当：加藤 高伸）

（2）試験研究等で開発した先進的技術の現地への実証・普及

◆中山間農業研究所中間検討会の開催

8月23日、中山間農業研究所において各生産組合役員を始め、各JA、市県等の関係機関から約70名が参加して中間検討会が開催された。当日は、野菜を中心に、果樹、作物、花卉等各部門ごとに熱心な検討が行われた。特に夏ほうれんそうでは、作付け後の秋期土壌消毒がハウレンソウケナガコナダニ対策として非常に有効であり、春作の被害が激減することが報告され関心を集めていた。

また、夏秋トマトでは在来マルハナバチの有効利用技術確立に向けて、紫外線照射により帰巢率が向上することが報告され関心が寄せられていた。



（野菜担当：成田久夫）

（3）普及指導員等の資質向上

◆「普及指導員養成講座」を開催

8月2日、普及指導員資格未取得者の2名（筆記試験の一部免除措置非対象者：審査課題（ア）受験者）を対象に第4回目の『普及指導員養成講座』を開催した。

今回は資格試験「審査課題（ア）」の事前対策として、食料・農業・農村情勢、基本計画等の法令・条約に関する知識の習得を図るため、本番と同様の時間で模擬試験を実施し、講座後半に模擬試験の答え合わせを行いながら「食料・農業・農村白書」の解説を行った。

今後は技術支援担当内の「普及活動・研修専門担当チーム」を中心に各受験者所属の支援者と連携し個別指導を継続する。 (花き・研修担当：井戸誠二)

◆高度技術（土壌肥料指導力向上）研修の前期課程を実施

肥料成分の高騰や一部の肥料成分の土壌への蓄積などを受けて、よりの確な土壌診断値の分析と施肥指導等が可能な普及指導員の養成、資質向上を図るため8月25、26日に高度技術（土壌肥料指導力向上）研修（前期）を実施した。

土壌肥料に関する最新技術や土壌肥料の指導に関する基礎知識や行政的な情報など講義を実施し、また、堆肥等の地域資源の利活用を進める現地実証等について現地での検討を行った。後期は11月29日～12月1日で実施する。 (野菜担当：加藤 高伸)

(4) 県下の技術の統一

◆第1回イチゴ栽培指導向上検討会を開催

8月23日、農業技術センターの協力を得て、普及指導員との栽培指導検討会を行った。今年は大気不順のなか「炭そ病」の発生が多い傾向にあり、今後の苗の過不足にも備えて情報交換と対策技術等について協議するとともに、花芽検鏡等への取り組みについても確認した。 (野菜担当：加藤 高伸)

(5) 行政及び関係機関との連携及び情報の提供

◆就農支援活動に関する検討会を開催

新規就農希望者への支援活動を推進するため検討会を開催し、社団法人岐阜県農畜産公社及び農業経営課就農支援担当と情報の共有、意見交換を行った。就農相談者への対応方法や地域の体制整備支援、また農業者との連携推進を進めるうえでの課題について確認し、解決に向けた活動方策等について検討した。今後も継続して開催し、連携を密にして就農支援活動に取り組んでいく。 (担い手担当：浅井義男)

2 その他

◆ナシ県下統一目揃会の開催

8月2日、岐阜市中央卸売市場にて岐阜梨県下統一目揃い会が開催された。今年春期の低温の影響のため生育が遅れ小玉傾向であるが、不作であった昨年より出荷量の大幅増加が見込まれる。幸水については、生育遅れから需要が多い旧盆に多く出荷できないが、糖度は12～13度と平年並みであり、食味は良好である。着色など出荷規格の説明を熱心に聞く生産者の姿から、今年の出荷にかける意気込みを感じた。 (果樹担当：石川嘉奈子)